

# 中央地区地下マップ

\* 大手町・紅雲町・千代田町・本町・三河町・朝日町・昭和町・平和町・住吉町・南町・六供町・日吉町・城東町・国領町・若宮町・表町・文京町・天川原町・天川町・岩神町・敷島町・緑が丘町内の主な発掘調査成果を紹介します。  
 \* 本市刊行の発掘調査報告書 PDF ファイルは、奈良文化財研究所の Web サイト「全国遺跡報告総覧」からダウンロードすることができます。（「前橋城(市役所西地点)」「前橋城三の丸東地点」「南町市之坪遺跡」「六供下堂木Ⅱ遺跡」「六供東京安寺遺跡」「六供中京安寺遺跡」「六供遺跡群No.5」「前橋城絵図帳」）



**①南北 200 m以上続く古代の溝**  
 ■県庁付近は古代に置かれた東山道駅路の「群馬駅家(くるまのうまや)」想定地で、この溝は東山道駅路から北に分岐する道路の側溝か駅家を囲む区画溝の可能性があるので。



■ 1. 灰釉陶器三足付段皿(表面) 2. 同(底面) 3. 緑釉陶器陰刻花文皿 4. 須恵器突帯付四耳壺。いずれも一般集落では出土しない希少な物です。



■ 7. パレス系壺  
 名古屋市内出土パレス系壺  
 ■ギリシアのクノッソス宮殿出土の土器になぞらえて名付けられたパレス系壺。東海地方の要素を持つこの壺は、県内では方形周溝墓・古墳から多く出土していましたが、南町市之坪(いちのつぼ)遺跡では古墳時代住居の炉から口縁部が出土しました。この集落の特殊性が想像されます。

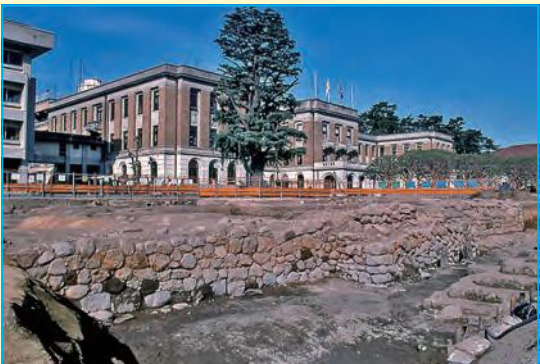
■区画整理に伴う調査により、六供町周辺は古墳時代以降、低地は水田、微高地は集落として利用されていたことが分かりました。



■古墳時代の水田跡  
 ■平安時代の水田跡  
 ■古墳時代の水田は6世紀初頭に噴火した榛名ニッ岳の降下物に、平安時代の水田は1108年に噴火した浅間山の軽石に覆われていました。白線で強調されているところが水田の畦畔です。古墳時代から連続と水田経営が行われていたことが分かります。



■古墳時代の住居跡  
 ■古墳の墳丘や主体部は削平されていましたが、周堀の一部が確認され、その中から祭祀用土器と滑石製勾玉が出土しました。



②県庁敷地内から現れた酒井氏時代の前橋城「三ノ門」石垣  
 ■「三ノ門」の門跡と見られる柱穴、土塁・堀に伴う石垣、堀に架けた橋脚の一部などが確認されました。「三ノ門」は、柱穴の底面に礎石等を敷いた掘立柱の建物で、桁行14.4m、間口3.6mの規模が想定されます。また多量の瓦が出土したことから、瓦葺き屋根だったと考えられます。



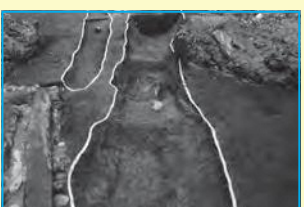
5. 発掘成果をもとに想定復元した三ノ門  
 6. 酒井氏の家紋が付く鬼瓦類 7. 鬼瓦(復元)  
 8. 酒井氏時代の鯨瓦想定復元図 9. 鯨瓦頭部 10. 鯨瓦ひれ部



③近世前橋城に伴う障子堀  
 ■16世紀までに掘削され、近世前橋城でも使用され続け徐々に崩れたと思われます。



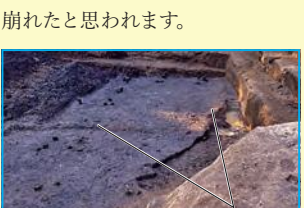
④近世前橋城水曲輪の堀跡  
 ■市役所新議会棟建設に伴う調査で確認されました。現存する前橋城絵図の中で、最も古い時期の前橋城絵図との照合により、水曲輪の堀であることがわかりました。



⑤堀の中に造られた水田  
 ■松平氏が川越に移城した時期の絵図に描かれたとおり、廃城期に堀が水田として利用されていました。



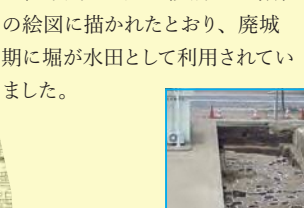
⑥再築前橋城三ノ丸の外堀跡  
 ■旧中央公民館解体工事に伴う調査で確認されました。堀跡の南では平行する道路状遺構も見つかりました。絵図から酒井氏時代から存在した「十人小路」と判明しました。



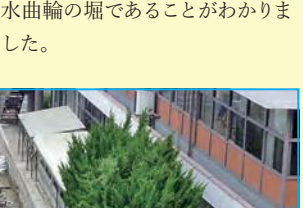
⑦前橋城大手門石垣発見箇所  
 ■石垣根の中に「十一人口」と墨書されているものがありました。



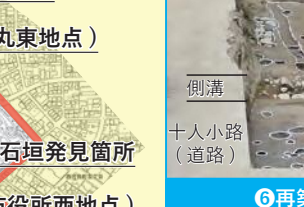
⑧六供下堂木Ⅱ遺跡



⑨六供東京安寺遺跡



⑩古墳周堀からの遺物出土



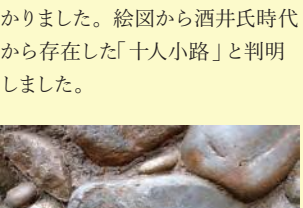
⑪六供中京安寺遺跡



⑫六供遺跡群No.5



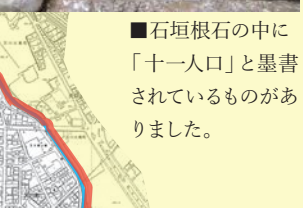
⑬南町市之坪遺跡



⑭前橋城(三の丸東地点)



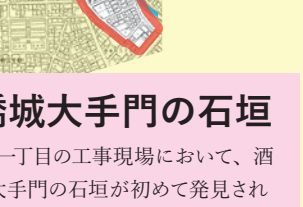
⑮前橋城(市役所西地点)



⑯前橋城北曲輪1号墳



⑰前橋11号墳



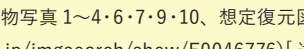
⑱前橋刑務所



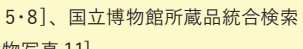
⑲清王寺の寄居



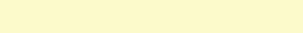
⑳三俣の寄居



㉑岩神米山古墳



㉒不二山古墳



㉓カロウト山古墳

㉔天川二子山古墳

## 発見！前橋城大手門の石垣

令和3年2月、本町一丁目の工事現場において、酒井氏時代の前橋城大手門の石垣が初めて発見されました。お城の顔とも言える大手門の石垣は、車橋門のものよりも大きく、精緻に加工され隙間なく積み重ねられていたことが分かります。



姿を現した石垣と前橋城絵図の大手門(白矢印が発見箇所)

0 1 : 20,000 1km

【写真・イラスト提供】  
 群馬県 [遺構写真①・②・③・④・⑤、遺物写真1~4・6・7・9・10、想定復元図5・8]、国立博物館所蔵品統合検索システム(<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0046776>) [遺物写真11]